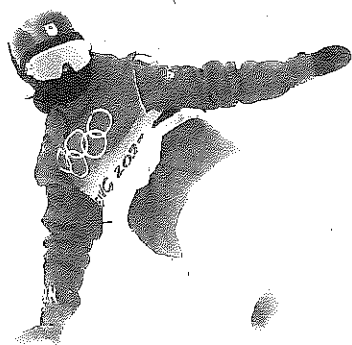


光る技術 小野決勝へ

女子ハーフパイプ

北京冬季五輪のスノーボード女子ハーフパイプの予選が9日行われ、吉川市出身の小野光希選手(17)(ハートン)が2位で決勝進出を果たした。母校の同市立中央中では同日午前、3年生の授業を取りやめてテレビで応援。教職員や生徒は予選突破を喜び、「10日の決勝は表彰台を狙って」とエールを送る。



女子ハーフパイプ予選、決勝進出を決めた小野光希選手の2回目(9日、中国・張家口で)。早坂洋祐撮影

吉川出身 恩師、後輩 歓喜に沸く



「五輪出場の先輩を応援する機会などめったにない。生徒たちは努力する素晴らしさを学べる」。競技時間に合わせ、中央中は50分授業を急ぎ、応援に充てた。3年生約200人が各教室で競技を見守った。

1組の教室では、小野選手(3年時)の担任だった上野信代教諭が生徒たちと観戦。1回目、3位になると、生徒は大喜び。2回目は高さのあるジャンプや高難度の技に歓声が湧いた。

拳を握り立ち上がり、生



中学時代の担任だった上野教諭。競技前も「頑張れ」と祈った(9日、吉川市立中央中で)

徒たち以上に興奮していたのが、上野教諭だ。「3位で納得せず、攻めに行く姿勢がよかった。もともと志は強かったが、日の丸を背負っている気概を感じた」と目に涙を浮かべ、「決勝は平常心で臨んでほしい。努力は十二分にした。いつも通りにやればメダルが取れる。小野、頑張れ」と祈るように話した。

1組の阿部竜士君は「す

ごいの一言。3年生は受験で大変だが、小野先輩と上野先生に勇気とパワーをもらった。決勝も頑張っしてほしい」と笑顔で話した。

小野選手の在学時を知る石合雅徳教諭は「小さな体でよく頑張った。学校の誇りだ」と目を細めた。